

イベントとまちづくりを考えるセミナー 「北の恵み 食ベマルシェ」と「スイートガールラン」

小松正明 公益社団法人 日本都市計画学会 北海道支部副支部長

平成29年2月28日(火)に、都市計画学会北海道支部主催のまちづくりセミナーを開催しました。テーマは「イベントとまちづくり」として、今回は、道北の30万人都市旭川で開催される二つのイベントについて、二人の講師からお話を聞きました。

1. 『北の恵み 食ベマルシェ』

一人目は、旭川市役所経済交流課長補佐の住吉俊彦さん。「食ベマルシェ」は、旭川市内の中心市街地にある「買物公園」を中心とした会場で、毎年9月の連休に開催されている食のイベントです。



道内二番目の人口の旭川市でも、中心市街地の歩行者数は年々減少しています。そこで、まちなかの活性化を目指して開催され昨年が7回目でした。中心市街地の賑わい創出、農業や食品製造業の振興などですが、さらに北・北海道の農畜産物・海産物などの魅力の発信などを基本コンセプトとした・イベントが開催されてきました。イベントには約320社が出店をし、期間中の出足は100万人を超えるそう。

課題は、イベントに対して持ち出している行政経費の一層の削減と効率化ですが、安全を考えると警備費用が大きな負担なのだそう。また、通り商店街の前に出店者のテントが並ぶことから、既存店の理解を得て、相乗効果をあげていくことが課題とのことでした。

2. 『スイートガールラン』～女性限定のランイベント

二人目は、やはり旭川市内で、『ランニングで女性をキラキラかがやかせる』をコンセプトにした女性だけのランイベントである「スイートガールラン」について、実行委員会の中心になっている前田博さんからお話を聞きました。前田さんによると、ランニングイベントは、始めは競技

性が強かったのが、日本では2007年の東京マラソンから、都市型参加イベントとしての脚光を浴びるようになり、タイムを競う「つらい・苦しい」ものから、「参加して楽しい」というイベントに変貌したとのこと。

ウェアやシューズも機能性だけではなくファッションブルなものが増えて、好きなウェアで思い思いの走り方で楽しむというスタイルが受けているとのことで、昨年は仮装した方も多くなってきたそうです。

そんな中、前田さんは東京のお台場で開催された「ラン・ガール・ナイト」を見て、女性のランイベントを旭川でやるのが地域貢献になると考え、実際には個人ボランティアの延長として実行委員会をつくり開催に尽力しています。

ただ走ってタイム計測をするだけではなく、スイーツ、フード、コスメ、マッサージなど、女性が喜ぶ体験が加わっているところが特徴で、昨年の大会参加者は約350人。市外からの参加者が50%近くにのぼり、初参加と常連の比率は、1:2だそうです。

前田さんは、これからの課題として、「本当は公道でみんなに見られるようにして走りたいが警察の許可が下りない」ということや、参加者の駐車場が不足していることなどを挙げられました。

両方のイベントにおいて、市内中心部の空間インフラの不足や、各種の規制による様々な制約が影をさしているという事が過大として挙げられ、会場からは、「人口減少が進んで地域が疲弊していく中で、今あるインフラや先人が作ってきたストックを生かして、もっと富を生み出すにはどうしたらよいか、を地域でも真剣に考えるべきだ」という指摘があり、一同うなずきました。

足りないものは足りないと言いつつ、今あるものを賢く使う。そんな知恵を地域から発信したいですね。講師のお二人と、参加して頂いた皆様にご挨拶申し上げます。

